

azbil

第99期 株主の皆さまへ

2021年3月期

上半期事業報告書

2020年4月1日～2020年9月30日



証券コード:6845

アズビル株式会社
(旧:株式会社山武)

社会を支えるオートメーションの技術・サービスの担い手として、持続可能な社会、SDGsへ「直列」に繋がる経営を実践、企業価値をさらに高めていきます。

代表取締役会長

曾禰 寛純

代表取締役社長

山本 清博

コロナ禍の影響による市況低迷の中においても事業収益力強化策の効果と経費抑制により利益を確保、利益率を維持

新型コロナウイルス感染拡大を受けて経済活動が停滞し、景況が悪化する中で、azbilグ

ループを取り巻く上期の事業環境は、設備投資に慎重な動きが見られるなど厳しい状況となりました。

こうした中で、ビルディングオートメーション(BA)事業は、国内における都市再開発・改修案件への投資を背景に、大型建物向けの機器・システムの需要が堅調に推移しましたが、大型案件など前年同期が高水準であったことの反動等から受注高・売上高が減少しました。アドバンスオートメーション(AA)事業も、5G関連投資の広がりを受け、半導体製造装置市場等での需要が継続しましたが、市況の低迷を受けて受注高・売上高が減少しました。またライフオートメーション(LA)事業も、ライフライン分野の一部市場における循環的な需要の減少や一時的な先送りなどにより受注高・売上高が減少しました。

一方、利益面では、営業利益・経常利益が減収により前年同期比で減少しましたが、事業収益力強化策の効果や、新型コロナウイルス感

第99期 上半期連結業績ハイライト

- 受注高
1,361億円 前年同期比 **6.2%** ↘
- 売上高
1,114億円 前年同期比 **6.1%** ↘
- 営業利益
83億円 前年同期比 **5.8%** ↘
- 経常利益
83億円 前年同期比 **7.7%** ↘
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
60億円 前年同期比 **2.6%** ↗

染拡大下での事業環境の変化に対応した効率的な事業運営、経費抑制により利益を確保し、前年同期と同水準の利益率を維持しました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益は、国内の工場統合に伴う固定資産売却益の計上等により増加しました。

以上の結果、上期の連結業績は、受注高1,361億8千5百万円(前年同期比6.2%減)、売上高1,114億1千万円(同6.1%減)、営業利益83億4千6百万円(同5.8%減)、経常利益83億1千6百万円(同7.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益60億9千8百万円(同2.6%増)となりました。

事業収益力強化の成果と事業環境の変化を反映し、11月に計画値を上方修正

新型コロナウイルス感染症による影響については、再度感染拡大の傾向が見られるなど世界的に長期化しており、市場の不透明感が依然として払拭されず、2020年度内は厳しい事業環境が続くものと捉えています。こうした事業環境認識のもと、感染拡大下においても当社グループの事業は継続することを前提に、2020年8月に通期業績計画を公表しました。現在の国内外におけるお客様の設備投資の動向は、未だ見通しが困難な状況にあり、業績計画の前提にも変更はありませんが、AA事業で一部の市場・地域において需要の増加が見られ、またグループ内では、上期の事業活動を通じて環境変化への対応力や事業収益力の強化が着実に進んでいることが確認できました。

これらを踏まえ、通期連結業績については、8月に発表した計画値を上方修正し、売上高2,480億円(前期比4.4%減)、営業利益255億円(同6.4%減)、経常利益250億円(同9.8%

減)、親会社株主に帰属する当期純利益179億円(同9.6%減)としました。

事業別には、AA事業の計画値を上方修正しました。新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の低迷がお客様の設備投資に影響を与えていることから、減収・減益ではありますが、設備の維持・更新に関わる需要が底堅く、中国等の一部の地域や半導体製造装置市場において需要の増加が見られることを受け、当初の計画値を上方修正し、売上高860億円(前期比7.7%減)、セグメント利益95億円(同9.4%減)を見込んでいます。

なお、BA事業、LA事業については当初計画から変更しておりません。BA事業は、高水準だった前期実績の反動に加え、海外において感染拡大により工事が遅延したことなどにより、売上高1,200億円(前期比3.1%減)、セグメント利益140億円(同6.0%減)としましたが、国内の都市再開案件等は堅調に推移しており、計画値の着実な達成に注力していきます。

LA事業は、ライフライン分野でLPガスメータの交換需要が減少すると見えますが、新たなメータデータサービスの伸長と、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野における着実な売上計上を見込み、前期同水準の売上高440億円(前期比0.1%減)、セグメント利益20億円(同7.1%増)を計画しています。

公表通り1株当たり25円の間配当を実施。年間配当は過去最高水準である50円を維持

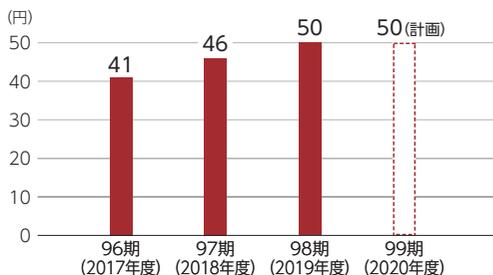
当社グループでは、株主還元の充実、成長に向けた投資、健全な財務基盤の3つのバランスに配慮した規律ある資本政策を展開し、企業価値の維持・向上を実現することを基本方針とし

トップメッセージ

ています。配当については、その水準の向上に努めつつ、安定した配当の維持に取り組んでいます。

この方針に基づき当期の配当は、期初の公

■1株当たり年間配当金・純資産配当率(DOE)



DOE	3.5%	3.7%	3.9%	3.7% (見込み)
-----	------	------	------	------------

* 1株当たり配当金は、株式分割(2018年10月1日付、分割比率1:2)の影響を加味し遡及修正しています。

表通り中間配当・期末配当ともに1株当たり25円、年間配当は過去最高水準である50円の維持を計画し、中間配当はこれを実施させていただきます。

新型コロナウイルスの世界的な感染が再拡大傾向を見せる中、事業環境は未だ不透明ではありますが、引き続き配当を中心としつつ、業績や株価動向等も考慮し、自己株式取得も機動的に組み入れる選択肢も含んだ規律ある資本政策の実践に取り組み、株主の皆様への利益還元の充実に努めていきます。

DXの推進を通じた“仕事と働き方の創造”によりアズビルのオートメーションによる提供価値の更なる向上を実現

■azbilグループの事業運営の考え方



近年の社会構造の変化に新型コロナウイルス感染拡大による影響が加わり、生活・産業のあり方やニーズが大きく変化し、解決すべき多くの課題が新たに出現しています。その中でオートメーションが果たす役割は、今後ますます拡大し、社会課題の解決に不可欠なものになっていくと思われます。当社グループは、そうした要請に応えるべく、持続的な成長(企業価値向上)のための仕組みづくりを進めていきます。具体的には新型コロナウイルス感染拡大への対策として、社員、お客様の安全を第一とした事業運営を進めながら、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を通じて「仕事と働き方の創造」を図り、新たな事業機会を創出、持続的な成長に向けた「新オートメーション領域の開拓」「環境・エネルギー分野の拡大」「ライフサイクル型事業の強化」の3つの事業領域の拡大を進め、自らの持続的成長を実現します。

SDGsを道標として経営を方向付け、社会課題の解決を通じて更なる成長を目指す

当社グループは、グループの理念実現にも繋がるSDGsを経営の新たな道標と位置づけ、オートメーションによる社会課題の解決を通じて更なる成長を目指していきます。このため、当社グループが取り組むべきSDGs目標として「環境・エネルギー」「新オートメーション」「サプライチェーン・社会的責任」「健幸経営・学習する企業体」の4項目を掲げ、指標を設定しました。この進捗と成果を定量的に捉えつつ、全社で取組みを進めていきます。(詳細は12ページをご参照ください。)

株主の皆様におかれましては、持続可能な社会を実現する当社グループの事業展開にご注目いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新社長の抱負

本年6月に代表取締役社長に就任し、前社長曾禰よりバトンを引き継ぎ、azbilグループの経営を担うこととなりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界的に厳しい経済状況が続いておりますが、今後のコロナ共生社会において、当社グループのコア・コンピタンスであるオートメーション技術及びサービス、エンジニアリング力が果たす役割はますます大きくなるものと確信しております。

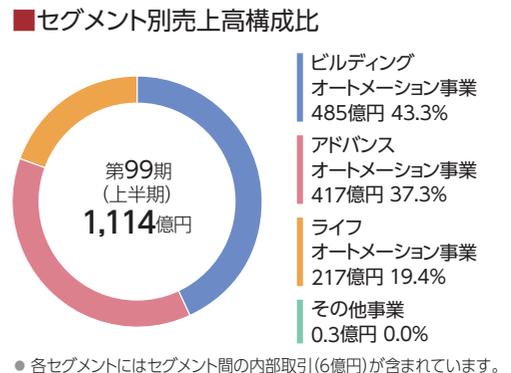
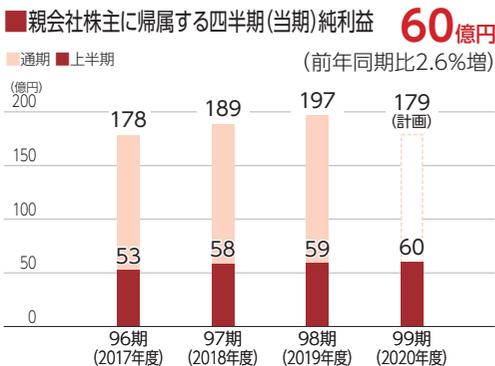
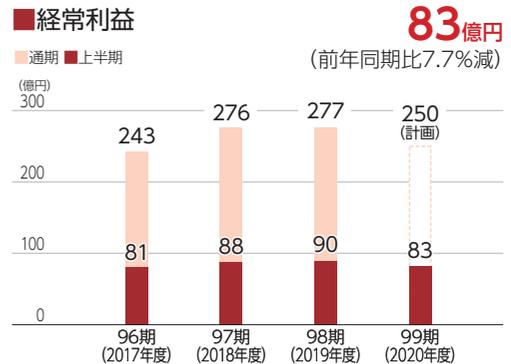
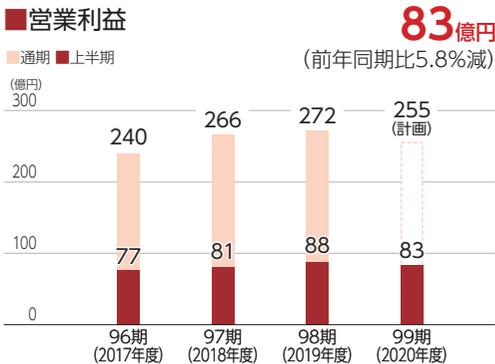
今まで築き上げてきた事業及び財務の基盤を起点に当社グループの更なる持続的な成長を実現するとともに、株主様をはじめとしたステークホルダーの皆様への継続的な価値提供を実現させていくことを自らのミッションと定め、新たな取組みに挑戦してまいります。今後ご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長 山本 清博

1989年4月当社入社。2011年4月ビルシステムカンパニー(BSC)マーケティング本部長、2014年理事経営企画部長、2017年執行役員経営企画部長兼BSCマーケティング本部長、2018年執行役員常務BSCマーケティング本部長、2020年4月執行役員副社長、2020年6月代表取締役社長就任。

- 市況低迷や前年同期の大型案件受注の反動等により、受注高・売上高ともに減少となったが、売上高は上半期の計画(1,100億円)を達成。
- 営業利益・経常利益は減少したが、事業収益力強化策や経費抑制の効果等もあり、ともに上半期の計画(76億円・73億円)を上回る。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は固定資産売却益の計上等により増加、上半期の計画(54億円)を達成。



* azbilグループの売上高は、下半期に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年上半期の利益は下半期に比べて低くなる傾向があります。

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	前期末 2020年3月31日現在	当上半期末 2020年9月30日現在
資産の部		
流動資産	209,190	198,319
固定資産	65,368	64,442
有形固定資産	28,217	26,957
無形固定資産	5,234	5,418
投資その他の資産	31,915	32,065
資産合計	274,559	262,761
負債の部		
流動負債	82,676	65,341
固定負債	6,581	8,233
負債合計	89,257	73,575
純資産の部		
株主資本	173,508	176,095
資本金	10,522	10,522
資本剰余金	11,670	11,670
利益剰余金	165,055	167,617
自己株式	△13,740	△13,714
その他の包括利益累計額	9,680	10,985
非支配株主持分	2,112	2,104
純資産合計	185,301	189,186
負債純資産合計	274,559	262,761

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	前上半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	当上半期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで
売上高	118,652	111,410
売上原価	73,080	67,748
売上総利益	45,572	43,662
販売費及び 一般管理費	36,709	35,315
営業利益	8,862	8,346
営業外収益	569	530
営業外費用	423	560
経常利益	9,007	8,316
特別利益	15	800
特別損失	51	38
税金等調整前 四半期純利益	8,972	9,078
法人税、住民税 及び事業税	1,295	1,020
法人税等調整額	1,565	1,747
四半期純利益	6,111	6,311
非支配株主に帰属する 四半期純利益	165	213
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,946	6,098

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：百万円)

科 目	前上半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	当上半期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,896	7,656
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,159	3,353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,503	△3,358
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△363	△374
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△8,130	7,275
現金及び現金同等物の 期首残高	68,134	74,743
現金及び現金同等物の 四半期末残高	60,004	82,019

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前上半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	当上半期 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで
四半期純利益	6,111	6,311
その他の包括利益	634	1,276
その他有価証券評価差額金	964	1,689
繰延ヘッジ損益	△11	5
為替換算調整勘定	△331	△425
退職給付に係る調整額	12	7
四半期包括利益	6,746	7,588
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,607	7,403
非支配株主に係る四半期包括利益	138	185

セグメント別業績ハイライト

ビルディング オートメーション事業

あらゆる建物に求められる快適性や機能性、省エネルギーを独自の環境制御技術で実現。快適で効率の良い執務・生産空間の創造と環境負荷低減に貢献します。

売上高
485億円
前年同期比
6.8%減

セグメント利益
25億円
前年同期比
14.0%減

- ▶ 売上高は、前年同期に高水準であった新築大型建物向け分野での反動や海外での工事遅延等により減少。一方、上半期の計画(480億円)は達成。
- ▶ セグメント利益は、減収影響により減少したが、経費抑制や採算性改善の効果もあり、上半期の計画(22億円)は上回る。

アドバンス オートメーション事業

工場やプラント等において、先進的な計測制御技術を発展させ、安全で人の能力を発揮できる生産現場の実現を支援。お客様との協働を通じ、お客様の新たな価値を創造します。

売上高
417億円
前年同期比
6.9%減

セグメント利益
48億円
前年同期比
0.4%減

- ▶ 売上高は、市況低迷の影響を受けたコントロールプロダクト事業^{※1}を中心に減少したが、上半期の計画(410億円)を上回る。
- ▶ セグメント利益は、収益力強化策の更なる進展により利益率が改善。上半期の計画(45億円)も達成。

ライフ オートメーション事業

建物、工場・プラントや生活インフラの領域で永年培った計測・制御の技術やサービスを、ガス・水道等のライフライン、住宅用全館空調、ライフサイエンス研究・製薬分野等に展開、「人々のいきいきとした暮らし」に貢献します。

売上高
217億円
前年同期比
2.7%減

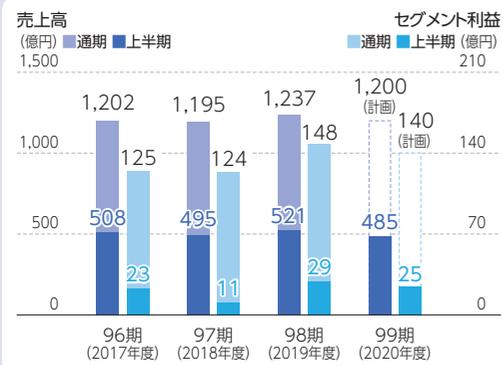
セグメント利益
8億円
前年同期比
7.8%減

- ▶ 売上高は、前期に受注が拡大したライフサイエンスエンジニアリング分野^{※2}が増加したが、需要の減少・先送りが生じたライフライン分野が減少し、当事業全体で減少、上半期の計画(219億円)をわずかに下回る。
- ▶ セグメント利益は、経費低減の効果はあったが、減収の影響により減益。上半期の計画(9億円)には届かず。

※1 コントロールプロダクト事業：AA事業の3つの事業単位の一つ。コントローラやセンサ等のファクトリーオートメーション向けプロダクト事業

※2 ライフサイエンスエンジニアリング分野：製薬企業・研究所に凍結乾燥装置・滅菌装置等の医薬品製造装置を提供

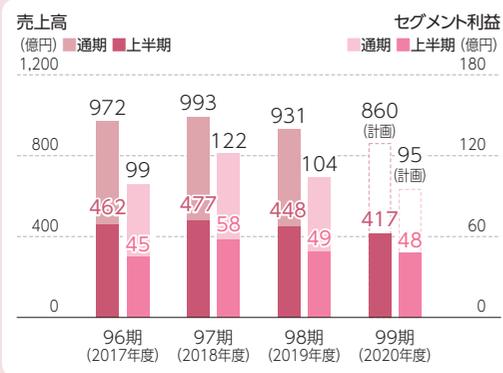
売上高／セグメント利益



売上高構成比



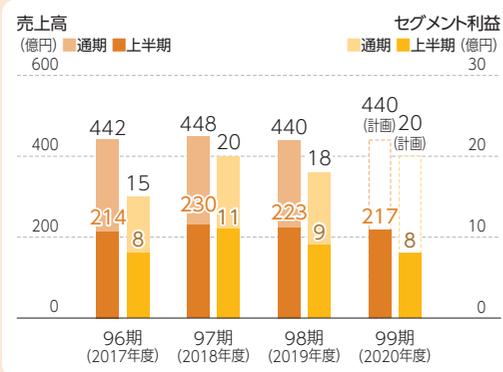
売上高／セグメント利益



売上高構成比



売上高／セグメント利益



売上高構成比



* 各数値には、セグメント間の内部取引高が含まれております。

News & Topics

アンジュ・ジャスワル東南アジア戦略企画推進室長が シンガポールのテクノロジー分野で活躍する女性100人に選出

当社のグローバル執行役員※1東南アジア戦略企画推進室※2長であるアンジュ・ジャスワルが、シンガポールのテクノロジー分野で活躍する女性100人(Singapore 100 Women in Tech、以下[SG100WIT])に選ばれました。SG100WITはシンガポールで今年度から始まった取組みで、シンガポールの技術分野に貢献し、後続の模範となる女性を表彰するものです。シンガポールの情報通信専門家協会、情報通信分野統制の政府機関、メディア最大手企業が共催し、実業界、産業界、学会の有力者による委員会が選出します。ジャスワルは、当社の業務を通じてシンガポールの多国籍企業や政府機関で高度なテクノロジーソリューションを展開しており、またハーバードビジネススクールクラブ※3において才能ある次世代育成にも携わっています。このような情報通信分野での業績と貢献が評価されました。



東南アジア戦略企画推進室長
アンジュ・ジャスワル

- ※1 グローバル執行役員(Global Executive Member): 海外事業戦略の一端を担い、卓越した能力の発揮と活躍を行う新たなグローバル人材への対応として2020年1月よりazbilグループにて導入した制度に基づき選任された、海外在籍メンバー
- ※2 東南アジア戦略企画推進室: 東南アジア地域において、横断的な事業推進・戦略企画・経営管理機能を担う、シンガポールを拠点とする組織
- ※3 ハーバードビジネススクールクラブ: ハーバードビジネススクール卒業生による同窓会

アズビルタイランドがSolution and Technology Centerを開設 — IoT・AIを活用した次世代インテリジェントサービスの提供 —

当社の現地法人であるアズビルタイランド株式会社は、IoT・AI技術を活用した次世代インテリジェントサービスの提供を行うことを目的に、東南アジアでも有数のコンビナート地区であるタイ王国のラオーン県にSolution and Technology Centerを開設しました。

昨今、Industry 4.0に代表されるように、グローバル規模でIoT・AIを活用したデジタル技術の産業への適用が進められており、タイ産業界においても、Thailand 4.0という名の下に、政府主導で積極的な技術展開が図られています。一方プラントや工場では、安定した稼働と保全の効率化のため、プロセスの異常をより速く検知して対応する予知保全を進め、突発的な故障を回避したいというニーズがあります。今回開設



アズビルタイランド
Solution and Technology Center

したSolution and Technology Centerでは、そうしたニーズに応えるべく、当社が展開している、IoT・AIを活用した未来予測、異常予兆検知のソリューションや製品を体感していただくことができます。今後は、広くアズビルのケーパビリティを訴求することで顧客開拓を進めながら、シンガポールに拠点を構える東南アジア戦略企画推進室とも連携を図ることで、将来的には東南アジア全体へ事業を展開していきます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う義援金を拠出

当社は、azbilグループを代表して、新型コロナウイルス感染症に対して最前線で治療にあっている医療関係の皆様や、感染拡大による子どもの孤立や教育等で困窮している子育て世帯の方々への支援、そして保健・医療システムが脆弱な国々での感染拡大において影響を受けている子どもたちとその家族のための支援として、「日本赤十字社」へ1,500万円、「中央共同募金会(赤い羽根共同募金)」へ1,500万円、国連の補助機関であるUNICEFの「新型コロナウイルス緊急募金」へ2,000万円、総額5,000万円を寄付しました。あわせて社員有志の社会貢献団体である「azbilみつばち倶楽部」からも当社と同じく各寄付先へ総額100万円の寄付を行いました。

また、新技術育成や将来を担う若者を支援することを目的に2016年に設立された「一般財団法人アズビル山武財団」においても、新型コロナウイルス感染拡大による状況を踏まえ、教育機会を喪失した学生や、ひとり親世帯等の社会的に弱い立場にあるご家庭や学生の支援として「中央共同募金会(赤い羽根共同募金)」へ1,000万円、「あしなが育英会」へ500万円を寄付しました。

今般のコロナ禍におきましては、社員や関係者の安全確保を大前提に、お客様の現場でもある医療機関やその他社会インフラの維持に努め、社会的な使命を果たすことに注力していきます。

withコロナ社会の感染拡大防止に貢献 — 発熱者検出ソリューションとパンデミック対応空調システム —

当社は、日本コンピュータビジョン株式会社(JCV社)と事業提携し、JCV社の顔認証システムを利用した「AI温度検知ソリューション」を販売開始しました。この顔認証システムには高解像度赤外線サーモグラフィカメラが搭載されており、非接触で0.5秒以内、 $\pm 0.3^{\circ}\text{C}$ の精度で検温することができます。マスク着用でも発熱者を検出し、アラートを発することも可能です。当社の入退室管理システムとの統合により、罹患者がした場合には、過去にさかのぼって同時時間帯の在室者等も調査でき、感染拡大防止に役立ちます。発熱者を速やかに検出できることから、オフィスやイベント会場等、不特定多数の人が出入りする施設、会場の入場管理に最適です。



画像は開発中のイメージです。

AI温度検知ソリューション

また、当社はその他にも、平常時の一般病室を、必要時には室内の気圧を低くした「陰圧」に制御することによって感染症対応病室に切り替えることができる「パンデミック対応空調システム」等、新型コロナウイルス感染拡大防止に役立つ製品・ソリューションを提供しています。

当社はazbilグループの理念である「人を中心としたオートメーション」の下、withコロナ社会に向けた製品・システム等を提供し、人々の安全・安心に貢献していきます。

* 「AI温度検知ソリューション」は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(通称:薬機法)で定められた医療機器ではありません。



当社の新型コロナウイルス感染症対応製品・ソリューションはこちらからご覧いただけます。

<https://www.azbil.com/jp/product/building/infection-prevention/index.html>



Side Stories

中野敦史様邸

—— 納入事例 ——

“想い”を採り入れた新居を建築 全館空調の快適性が家族の暮らしを彩る



愛知県名古屋市中で広告・イベント関係の企画・制作を行う会社を経営する中野敦史さん、主婦業の傍ら敦史さんの仕事の手伝いもこなす恵美さん、そして中学1年生の陽太さんのご家族は2017年6月に自宅を新築されました。新しい家で、どのように生活したいかということを考えていく中で、各部屋の壁に設置されるエアコンを見せたくない、暑さ、寒さが苦手なので年中快適な家になりたい、リビング階段（1階リビングに吹抜けを施し、そこに階段を設ける構造）にしたオープンなスペースを設けたいなど、自分たちの“想い”をしっかりと採り入れたものにしたいと考えられました。そこで採用されたのがアズビル株式会社の全館空調システム「きくばり™」です。1台の空調システムで家全体の空調を管理し、ホテルにいるような快適な温度を一年を通して実現することができます。各部屋にエアコンを設置する必要がなく、意匠に強いこだわりをお持ちのご主人の“想い”にも沿うものでした。全館空調に搭載されている電子式エアークリーナが空気をきれいにするため、埃もたまりにくく、年末の大掃除からも解放されました。アズビルによる定期点検も実施されています。各部屋のエアコンのお手入れや、石油ファンヒーターへの給油等の手間からも解放されたうえに、電気代も決して高くないとご評価をいただいています。

▼リビングやキッチンなど各所に配置された温風、冷風の吹き出し口。空調の効果を最大化するため、室内の気流を考慮して取付け位置を設計している。



▲2階に設置された「きくばり」の冷暖房を制御するリモートコントローラ

アズビル株式会社 ホームコンフォート本部事業推進部中部営業所 谷口 辰彦



私が担当しました

重要物件を数多く手掛けるハウスメーカーの設計部門様からの推奨もあり、ホテルにいるような快適性と、新機種採用による家全体のトータルコーディネート面でも魅力的な提案が実を結びました。中野様には、実際に全館空調を導入いただいている住宅にご訪問いただき、室内の意匠や快適性、電気代等の運用コストにもご納得いただき、採用に至りました。中野様のご要望に合わせて通常とは違う意匠への対応が発生した際も、ハウスメーカーのご担当者様と誠意をもって対応し、とてもご満足いただけました。

きくばりを導入された多くのお客さまから「全館空調を導入して本当によかった。とても快適に過ごしている。全館空調のない家にはもう住めない」といった声をいただいています。自信をもってお勧めする商品を、多くの方に採用いただけるように、熱意と誠意をもって対応し、お客さまのニーズに応えていきたいと思っております。

* きくばりは、アズビル株式会社の商標です。

azbilグループのSDGsへの取組み

azbilグループSDGs目標

グループ理念・行動指針・行動基準を土台として、オートメーションによる価値創造への取組みを通して持続可能な社会、SDGsへ「直列」に繋がる経営で、社会課題の解決と持続的な成長の両立を目指します。

azbilグループ全体で取り組むSDGs目標は、4つの基本目標とターゲットで構成されています。

本年8月、右記目標を踏まえ、持続可能な社会への貢献を着実に進めるため、新たな定量的指標を決定しました。



新たな定量的指標 (2020年8月決定)

[2030年度目標]

環境・エネルギー

協創による地球環境とエネルギー課題の解決への貢献

● お客様の現場におけるCO₂削減効果^{※1}



340 NEW
万トン/年

● 温室効果ガス (GHG) 排出削減目標^{※2}

事業活動に伴う
GHG排出量(スコープ1+2)^{※3} : 2013年基準 **30%**削減
サプライチェーン全体の
GHG排出量(スコープ3)^{※3} : 2017年基準 **20%**削減

健全経営・学習する企業体

健全経営と永続的な学習による社会課題解決の基盤強化

● 健全経営の目標

アズビルで働くことに満足する社員 **65%**^{※4} NEW以上

● 学習する企業体としての目標

1年間での成長を実感する社員 **65%**^{※4} NEW以上

※1 製品・サービス・ソリューションの提供を通じたお客様の現場における年間でのCO₂削減効果

※2 国際的な認証機関に認定された科学的根拠に基づいた目標 Science Based Targets (SBT)

※3 スコープ1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)

スコープ2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

スコープ3: 事業者の活動に関連する他社の排出 (スコープ1、スコープ2以外の間接排出)

※4 毎年、社員満足度調査を実施



新たな定量的指標の詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://www.azbil.com/jp/news/200827.html>



イベントでの情報発信

本年8月31日、企業や組織の取組みを報告・共有し、日本企業の新たな強さを大丸有(大手町・丸の内・有楽町)から発信するイベント、日経SDGsフェス「日経SDGs/ESG会議」に協賛し、当社社長の山本清博が「持続可能な社会、SDGsに『直列』に繋がる『人を中心としたオートメーション』」と題した講演を行い、アズビルのSDGs・サステナビリティへの取組みを多様なステークホルダーに発信しました。

概要

商号 アズビル株式会社
 英文商号 Azbil Corporation
 創業 1906年12月1日
 設立 1949年8月22日
 資本金 105億2,271万6,817円
 従業員数 5,419人(連結 10,010人)
 事業内容 azbilグループは、人々の安心・快適・達成感と地球環境への貢献を目指す「人を中心としたオートメーション」を追求し、建物市場でビルディングオートメーション事業を、工場やプラント市場でアドバンスオートメーション事業を、ライフラインや健康等の生活に密着した市場において、ライフオートメーション事業を展開しております。

事業所

▶ 本社
 〒100-6419 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)
 ▶ ビルシステムカンパニー
 東京本店、北海道支店、東北支店、茨城支店、北関東支店、東関東支店、横浜支店、長野支店、中部支社、北陸支店、関西支社、中四国支店、九州支店、その他全国営業所等
 ▶ アドバンスオートメーションカンパニー
 北海道支店、東北支店、北関東支店、東京支社、中部支社、関西支社、中国支店、九州支社、その他全国営業所等
 ▶ 工場等
 藤沢テクノセンター、湘南工場、秦野事業所
 ▶ 海外支店
 中東支店、アブダビ支店

役員

取締役



代表取締役会長
 執行役員会長
曾瀬 寛純
 取締役会議長、
 グループガバナンス
 強化 担当



代表取締役社長
 執行役員社長
山本 清博
 グループCEO、グルー
 プ監査部、経営企画部
 担当



取締役
 執行役員専務
横田 隆幸
 社長補佐、コーポレ
 ート機能(コーポレ
 ートコミュニケーション、
 CSR、内部統制含む)、
 国際事業 担当



取締役
 執行役員常務
岩崎 雅人
 ライフオートメーシ
 ョン事業 担当、ライフ
 サイエンスエンジニ
 アリング事業推進室
 長 委嘱



取締役
 執行役員常務
北條 良光
 azbilグループ(aG)
 生産機能、aG購買機
 能、アドバンスオート
 メーション事業、プロ
 ダクションマネジメン
 ト本部 担当、アドバ
 ンスオートメーション
 カンパニー社長 委嘱



取締役
 執行役員常務
濱田 和康
 ビルディングオート
 メーション事業、aG
 営業シナジー 担当、
 ビルシステムカンパ
 ニー社長 委嘱



取締役
 (社外取締役)
田辺 克彦



取締役
 (社外取締役)
伊藤 武



取締役
 (社外取締役)
藤宗 和香



取締役
 (社外取締役)
永濱 光弘



取締役
 (社外取締役)
アンカー ツェー ハン

監査役



常勤監査役
勝田 久哉



常勤監査役
松安 知比古



監査役
 (社外監査役)
藤本 欣哉



監査役
 (社外監査役)
佐久間 稔



監査役
 (社外監査役)
佐藤 文俊

執行役員

執行役員常務 **新井 弘志**
 執行役員常務 **西本 淳哉**
 執行役員常務 **成瀬 彰彦**
 執行役員常務 **伊東 忠義**
 執行役員 **鈴木 祥史**
 執行役員 **平野 雅志**
 執行役員 **坂本 孝宏**
 執行役員 **住友 俊保**
 執行役員 **今村 隆至**
 執行役員 **林 健一**
 執行役員 **丸山 哲也**
 執行役員 **武田 知行**
 執行役員 **沢田 貴史**
 執行役員 **岩崎 哲也**
 執行役員 **鶴田 寛一郎**
 執行役員 **清水 洋**
 執行役員 **高村 哲夫**
 執行役員 **石井 秀昭**
 執行役員 **泉頭 太郎**
 執行役員 **山田 真稔**
 執行役員 **村山 俊尚**
 執行役員 **小林 哲夫**

株式の状況

発行可能株式総数	559,420,000株
発行済株式総数	145,200,884株
株主数	7,058名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,571	8.17
明治安田生命保険相互会社	10,428	7.37
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	9,693	6.85
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,107	4.31
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リフィデリティファンズ	5,213	3.68

※持株比率は自己株式(3,722,237株)を控除して計算しております。

所有者別状況



IRカレンダー

● 2021年3月期



当社株式は、東京証券取引所と日本経済新聞社が算出する「JPX日経インデックス400」の2020年度(2020年11月30日～2021年8月30日)の構成銘柄として選定されました。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
単元株式数	100株

公告方法	当社ホームページ(https://www.azbil.com/jp/ir/)に掲載しております。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座口座管理機関事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金受取方法の変更等)		みずほ証券 本店及び全国各支店 / プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) / みずほ信託銀行* 本店及び全国各支店
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行*及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
	※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。	

表紙写真

MERRY PROJECT代表 水谷孝次氏による「MERRY SMILE KITE」。東日本大震災から10年。9月21日は国連が定めた「PEACE DAY(国際平和デー)」。「平和」の象徴である笑顔に、新型コロナウイルスの終息と、復興への願いを込めた大凧が、東北の青空に広がりました。(アズビル株式会社 協賛)



本上半期事業報告書は、次により記載しております。

- 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
 - 千株単位の記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
- 本誌からの無断転載・複製はご遠慮ください。

azbil

人を中心としたオートメーション

あすみる、 アズビル。

オートメーションで未来を描く

アズビルは、計測・制御技術を通して、安心・快適の実現と地球環境に寄与してきました。これからも、お客さまに寄り添い、お客さまの現場における価値の創造により、持続可能な社会の実現に貢献します。

アズビル株式会社 〒100-6419 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル
TEL.03-6810-1006

注意事項

本上半期事業報告書に記載されている当社の計画、目標等のうち過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これら見通しと異なることがありますことをご承知おきください。

